

会議録（要点記録）

第2回堺市美原区区民評議会					
開催日時	平成29年8月18日（金）午後3時～3時55分				
開催場所	美原区役所本館5階大会議室				
出席委員	戸谷会長・山本副会長・佐藤委員・杉谷委員・高城委員・武部委員・田中委員・伯井委員・吉原委員				
事務局職員	石田副区長、企画総務課今田参事役・白川課長補佐・大野主幹・津田係長・中塚主査				
関係課職員	自治推進課坂本課長、地域福祉課大橋課長、美原保健福祉総合センター平井所長、美原保健センター池田所次長・山中主幹・正徳主査				
案件	1 誰もが元気にいきいきと過ごせるまちづくりについて 2 その他				
傍聴者	0人				
配付資料	<table border="1"><tr><td>資料1</td><td>美原区の健康づくり自主グループへの参加状況</td></tr><tr><td>資料2</td><td>自主グループ紹介パンフレット</td></tr></table>	資料1	美原区の健康づくり自主グループへの参加状況	資料2	自主グループ紹介パンフレット
資料1	美原区の健康づくり自主グループへの参加状況				
資料2	自主グループ紹介パンフレット				

開会

《事務局が会議の成立を報告し、公開を確認》

○戸谷会長 それでは、よろしくお願いいたします。

まず、案件1に入ります前に、今日9日に、堺市長と7区の区民評議会会長との意見交換会がございましたので、そのことについて少し報告をさせていただきます。

「都市内分権」を掲げ、市長が2年前にこの区民評議会をつくられました。先週は各区の区民評議会会長さんが出てこられて、その区のいろいろな問題点や考え方などを意見交換いたしました。各区から市議会議員の方が出ておられていますので、普段はその議員の方を通じて区が意見を集約して、行政が動くことになるのですが、それだけではなく、その区域で代表的に活躍されている方の意見を吸い上げて、また行政に反映させようということがあります。

市長がおっしゃったのは、いわゆる自助、共助、公助のことでした。自助というのは、自分たちができることはまず自分でしましょう。共助というのは、自分では少ししにくいけれども、周りの人たち、御近所や地区、そういう人たちが集まってすると。また、もう少し大きな問題でしたら、公助の、行政の仕事だということです。3つ大きく、自助、共助、公助とありまして、この区民評議会は、どちらかというとも共助の視点で審議し、後は市との橋渡しをする機能を持っているのではないかと思います。市長はこれらを「補完性の原理」という言葉でまとめられました。

あと、いろいろな区の特徴がありますが、美原区は、一番後から堺市に入ったということで、その特徴について申し上げておきました。

以上、簡単ですけれども、御報告をしておきます。

案件1 誰もが元気にいきいきと過ごせるまちづくりについて

○戸谷会長 それでは、審議を始めていきたいと思います。元気にいきいきと過ごすためには、心身の健康が欠かせません。諮問書を読みますと、健やかな生活習慣の継続が重要であって、個人の自覚・実践、家族の支えだけでなく、地域をはじめとする社会環境も大きく影響する、とあります。

まず、前回の会議の中で、いきいきサロンやチューブ体操の参加者はどのぐらいか、数字は出せないのかというお話がありましたので、まず事務局から御報告をお願いいたします。

○事務局（大野） まず、いきいきサロンについては、これは社会福祉協議会の支援をもって校区福祉委員会が主催する事業ですけれども、参加者数は把握できませんでした。年に4回、地区ごとに手芸教室や茶話会を開催するところが多く、高齢者をはじめ、地域の方が集う機会となっている事業です。申しわけありませんが、参加者数は把握できませんでした。

次に、チューブ体操ですけれども、自主的な活動ということですので、実際その活動日に何人の方が参加されているかまでは把握できないのですけれども、保健センターと連携して活動されている部分がありますので、会員数だけは把握しております。チューブ体操をはじめ、健康づくりの自主グループの会員数をまとめたものが資料1となります。

資料1の①の最初の表をごらんください。ウォーキングなど6種類に分けて、グループ数と会員数をあらわしております。上から5行目がチューブ体操で27グループ、会員数が569人です。全体が973人ですので、会員のうちの6割ぐらいがチューブ体操をされていることとなります。

それから、下の表は最近5年間の自主グループのグループ数と会員数の変遷です。平成27年度まで会員数は順調にふえていますけれども、28年度は横ばいとなっております。

それから②の自主グループの育成では、保健センターで自主的に健康づくりに取り組むグループを新たに育成するため、毎年ウォーキングや太極拳などテーマを決めて健康講座を開催し、そこに参加された方同士で自主グループの結成を促すような取り組みを行っております。また、美原区で広く活動されているチューブ体操につきましては、効果的に健康づくりができるように、保健師が地域に出向いて、チューブ体操の講座を開催したりしております。

そして、③ですけれども、自主グループの運営がスムーズにできるようリーダーへの支援として、美原区健康づくり推進委員会を2カ月に1回開催し、情報交換をいただいたり、健康に関するスキルアップになるような研修会に参加していただいたりしております。また、保健センターと協働して市民の皆さんへの健康増進の啓発にも携わっていただいております。さらに、別途、チューブ体操グループのリーダーを対象に、交流会を年に3回開催しております。それから、保健センター以外からの支援で、チューブ体操のリーダーを養成する自主グループ「カノン」では、リーダーさんが代わりしても継続的に活動できるように新たなリーダーを養成する、そういうグループもできているところです。

自主グループなど健康づくりの活動を促進するための、区民に向けてのパンフレットを作成しております。それが資料2でございます。具体的な活動内容はこちらをごらんいただくと、御理解いただけるかと思っております。以上です。

○戸谷会長 何か御意見、御質問ありますでしょうか。

いきいきサロンの参加者数を把握できないというのは、どういうことでしょうか。

○事務局（大野） いきいきサロンは社会福祉協議会の事業で、実際に活動されているのは校区福祉委員会の方です。その活動状況として年間の実施回数などの報告は、社会福祉協議会に入っていますけれども、参加者数は報告されないということです。

○戸谷会長 あと、平成24年からの会員数の変遷が出ていますけれども、少しずつふえているということですね。

何か御質問などありますでしょうか。はい、どうぞ。

○伯井委員 この「自主グループ」という定義ですけれども、資料2のパンフレットを見ますと、保健センターが管理か把握かされている範囲でございますかね。例えば、地区会などの各地域でされているものは含まれていないという理解でよろしいでしょうか。

○事務局（大野） 資料2のパンフレットに、「美原区健康づくり推進委員会」と載っていますけれども、ここに参加されているグループに限定しております。ですので、グループといいましても、近所の方が示し合わせて毎晩何時に歩こうよというグループまでは把握していません。この委員会に参加されているグループに限定しております。

○戸谷会長 この自主グループの活動を見ますと、やはりチューブ体操は人数も、グループ数も多いですし、非常に活発にやっておられるという印象を受けます。そのことで何か御意見、御感想はありますか。

○杉谷委員 最初に立ち上げたとき、保健センターから各地区にチューブ体操の先生方が、3カ月ほどの間に6回ぐらい来ていただきました。最初は老人会や女性会の方が中心になって立ち上げていただいて、そこから始まっています。今は老人会や女性会に限定するグループが少なくなり、ほとんどの地区で、自主活動グループとして、保健センターにお世話になりながらやっております。新しいグループができたりして、まだまだふえていくのではないかなと思っています。

○戸谷会長 このパンフレットの後ろに書かれていますね。チューブ体操のグループ名と対象者、活動日時ですね。グループがかなり多くて、いろいろなところで頻繁にやっておられるようですね。

○杉谷委員 各地区で問題はいろいろで、人数の少ないところがあれば、人数が多くて活発になさっているところもあります。高齢化やリーダーの育成など、個々にはいろいろ問題はあると思います。

○戸谷会長 パンフレットの上の写真に「チューブ体操大会」とありますけれど、そういう全

体でするものもあるのですか。

○杉谷委員 年1回、美原体育館にたくさんの方に集まっています。

○田中委員 いいですか。

○戸谷会長 はい、どうぞ。

○田中委員 私の勘違いかもしれませんが、チューブ体操といきいきサロンをセットでしているところはないですか。

○武部委員 チューブ体操といきいきサロンをセットするところは、私の把握しているところでは、多分ないと思います。ただ、例えば「校区ボランティアビューロー」など、グループで何か活動されたあとなどで、チューブ体操をセットすることはあると思いますけれども、いきいきサロン独自の事業として、チューブ体操と一緒にするところは、私が今把握している範囲では、ないと思います。

○戸谷会長 体操グループがまた別にありますね。チューブ体操以外の体操グループの写真が出ていますけれど。

○杉谷委員 チューブ体操をしない体操グループも2つぐらいあります。それも保健センターの講座から立ち上がったグループです。

○戸谷会長 この会員数に書かれている人数はのべですね。だから、同じ人がいろいろなグループに入っているということですね。事務局に確認しますけれど。

○事務局（大野） のべ人数です。複数入ってらっしゃる方もいます。

○戸谷会長 いかがでしょうか。前回の御質問に対して、事務局に調べてきていただいたということですが。

それでは、もう少し全体的な御意見でもいいのですけれども、前回いろいろな意見が出まして、例えば認知症のサポート含めた高齢者対策の問題だとか、現役世代の生活習慣病の改善という話も出ました。あと、グループの世話役をどういうふうにして応援するかというお話も出ましたし、また、その既存の活動に参加してもらって、もっと、人数をふやしたり、活発に活動したりするにはどうしたらいいかというお話が出ましたけれども、何かその辺でまた新たな御意見はございませんか。

きょう、何事かを決めるという会議ではないので、自由に御発言いただいて結構ですけれど、何かありますか。

○佐藤委員 きょうの資料などを拝見しておまして、今回のテーマが「誰もが元気にいきい

きと過ごせる」となっていますけれど、これは先ほどの市長の言葉を借りると、自助を促すための共助のあり方という感じですね。防災とは少し観点が違うところがあって、1人ずつが健康になっていくためにはみんなでどう取り組もうかというところがポイントだと思います。このチューブ体操のやり方ですが、非常に美原区に適した方法だと思いました。校区全体でやるのではなくて、自分たちの町の中の集会所や公民館を使って、顔見知りと一緒にするところが美原に向いており、そこに保健師さんも出向いてくれるのがプラスになって、とてもよい方法だと感じました。

ただ、資料を拝見すると、活動時間は働いている人が参加するには少し無理な時間帯に行われており、写真を見る限り男の人は余り写っていないようです。ですので、チューブ体操を地域のまちづくりのベースをつくっているような活動にしていくとするならば、そういう人たちがもう少し参加できる時間帯のメニューもあればいいと思います。例えば土曜日や日曜日なら少しやってみようと、今までこうした活動に参加しない人たちも出てきてもらえるような方法ならコミュニティづくりになると思いました。

あともう1つ、今、介護予防を地域の責任でやっていかなければならないということで、先日、奈良の生駒市でヒアリングをしてきました。要支援の人たち、あるいは特定高齢者と言われる少し虚弱な人たちを徹底的にリハビリして元気にしていこうと、市をあげて取り組んでいるということでした。その中の住民主体で行っている活動でおもしろいと思うのは、お昼御飯を必ずセットでつけることですね。お昼御飯をつくるボランティアグループと一緒に活動で、御飯もあるから体操にも来ると、プラスの効果がありました。ひとり暮らしの方の孤立予防につながることもありますので、このチューブ体操のスキームをうまく校区福祉委員会の活動などに連結させると、もっと広がることになっていいのではないかと思います。

○戸谷会長 チューブ体操は全部の地区でやっておられるのですか。

○杉谷委員 すべての地区でグループを立ち上げました。

○戸谷会長 やっていない地区はないのですか。

○杉谷委員 1つなくなったところはあります。

○戸谷会長 ありがとうございます。どうぞ、深田委員。

○深田委員 今回のテーマでは、高齢者など成人から絞るのでしょうか。子育てをしながら、というところは入っていけないのでしょうか。子育てでも自主グループをつくって、地域で孤立しないようにということがあります。もちろん虐待予防の面もあって、孤立した子育てがよくないと言われていています。子供からお年寄りまでと私は考えていて、今、成人から高齢者のところで話をされていますけれども、美原で子どもを産んで、小学校から高校まで行って、そして成人にと連続性があるのではないかと思ったので、そこがどういうふうに、このテーマに吸い上げられるのかと質問なのですが。

○戸谷会長 そうですね。「誰もがいきいき」というテーマなので、もちろん高齢者だけではないということですけど。

○事務局（大野） 高齢者だけに限定しているものではないです。

○杉谷委員 美原では若いお母さん、子育て中のママのグループも盛んです。「かるがも」や「ひよこクラブ」などのグループが、校区に1つはあります。結構、盛んなところと、それなりのところと、いろいろだとは思いますが、月2回ぐらい集まってなさっていると思います。

○高城委員 それに関連しまして、このパンフレットの中の体操グループの上から2段目にある「さつき野バランス・BODY」。これがまさにその子育て中の親子でされていますね。子供も一緒にしますが、母親自身のための健康増進のグループです。もちろん体もそうですが、心のケアについても、ここでママ友をつくって、子供の悩みなどをいろいろお話されています。そして、先ほど出ました「かるがも親子応援隊」は、さつき野では月1回、第3木曜日の午前中に活動されています。私、福祉委員をしていて、その運営に携わっていますが、結構、たくさんの親子が参加されます。その中で、この「さつき野バランス・BODY」の方がリーダーとなって、年に何回か「かるがも親子応援隊」で指導していただくというつながりがあります。

深田委員がおっしゃったように、私もこの前発言させていただいたのですが、食生活にしても、また睡眠にしても、生活習慣は幼いころから身につけないといけないと思っていますので、全部ひっくるめて考えていくべきではないかと思っています。

それから、先ほどいきいきサロンのお話が少し出ましたが、このいきいきサロンは福祉委員でやっています。さつき野では第3木曜日の午後にやっております。かなり高齢の方がいらっしゃいます。まず、一番初めにすることはラジオ体操です。ラジオ体操の歌を歌ってから、ラジオ体操の第1だけをやります。福祉委員も前に出てやるのですが、きのうもラジオ体操だけで結構息切れがしました。かなりの運動量になるのですね。椅子にかけてなさってもいいですよと言っても、80、90代の方でも結構立ってなさいます。そこに参加される方は、御自宅から会場のコミュニティセンターへ歩いていらっしゃる。歩いていらっしゃるだけでも、かなりの運動量。月1回のことでですけども、楽しみにいらっしゃいます。年間12回のうち、大体3回、4回は、リーダーの方に来ていただいて「元気アップ体操」という、1時間ほど体を使い、脳を使った運動をしていただきます。とても楽しくやっています。それぞれの地区でも、いきいきサロンの中で、健康にかかわるいろいろな運動をされていると思います。

ちなみに、チューブ体操はさつき野に2グループありますけれども、とても盛んです。60代、70代ぐらいで、いきいきサロンにいらっしゃる方より、少し年齢が下がります。いきいきサロンとチューブ体操のセットは、さつき野ではしていません。

○戸谷会長 ありがとうございます。先ほど、伯井委員が言われたけれど、これは健康づくり

推進委員会が把握している範囲の話で、それ以外のところもあるわけですね。かるがも親子応援隊ですか、この資料には載っていないですね。

○事務局（大野） 健康づくりの自主グループとは位置づけが違いますので、今回資料は御用意できていません。

○戸谷会長 あることはあるのですね。

○杉谷委員 校区に1つは。

○武部委員 各校区に子育てサークルがあって、就学前の子供さんとお母さんが、こども館などに校区単位で集まっております。多少の違いはありますが、少なくとも月1回は活動していきまして、遊び、健康面での相談など、その月々でテーマを決めて、そのときそのときの話題でいろいろやっています。毎月1回、その校区によって日にちは違いますが、最低1回はどこの校区でもやっております。

○戸谷会長 あと、チューブ体操も老人クラブの会員限定というのがありますね。将来的にその枠を広げるとするのは難しいですか。

○杉谷委員 いろいろ地区の事情があって、なかなか難しいところがあります。でも、大分枠が外れてきましたね。以前は、限定している地区がもっと多かったのですが、今は大分少なくなってきました。

○戸谷会長 ほかに何か御意見はございますか。

○山本副会長 資料1につきましては、前回、私のほうからお願いした資料ですが、この「自主グループへの参加状況」という表現と「会員数」とはイコールではないですね。参加促進ということだと、進んで参加していただくためには、先ほど佐藤委員が言われましたけれど、何か食事をつけてそこへ来てもらうとか、伯井委員が前回言われましたグループへの後押し、区長の言われた限定、そこに加入していないから参加できないという色を消していかなければいけないなどの問題があります。この43グループで973人が多いのか少ないのかわかりませんが、参加数とはイコールじゃないというのは確かですね。

○事務局（大野） 会員数であって、参加人数ではありません。

○山本副会長 そこまでの数字は拾えないのですか。次の議論へ進むために、例えば男性の参加が少ないことがわかって、それをどういうふうに潰していくかとなると、そういうデータもいるのですけれども、どんなものでしょうか。そんなに難しいことですか。

○池田所次長 毎回の各自主グループの参加人数は実際には拾っていません。ただ、その男性

の参加人数、女性と男性の参加比率に関しましては、チューブ体操においては1割にも達していないというところです。今、資料を持ち合わせていないのですが、9割方女性の参加ということです。

○山本副会長 割と男性は、誘いがなければ進んでそういうところに行かない。自分から行くことは少ないので、参加促進につきましては、リーダーや参加されている周りの方の誘い、いろいろな仕掛けがないと、いつやっていますよという告知も大事ですけど、知っていながら、私も男のほうでなかなかそこへ最初に行きにくいという気持ちがありますね。その辺の皮を破るような何かがあればと思うのですけど。

○杉谷委員 男性の方が1人でも2人でもいらっしゃるグループは、比較的また次の方が入って、五、六人とかいらっしゃるグループもあります。ほとんどは女性ばかりというグループです。

○山本副会長 女性ばかりのところへ、男性は行きにくいと思う。

○杉谷委員 そうですね。男性専用のグループを考えたほうが行きやすいのかなと考えたりもしますけれど、どうでしょうか。

○戸谷会長 どうですかね。時間的な問題はありませんか。

○杉谷委員 でも、皆さんリタイアされた方ですし。

○戸谷会長 リタイアされていたら一緒ですか。

私、少し気になったのですが、例えばウオーキングや軽登山の活動をして、報告書は出さなくていいのですか。何月何日何人でどこへ行ったと、行政の資料として蓄積できれば、今、山本副会長が言われたようなこともわかると思いますけども。数を把握していませんということでもいいのか疑問に思いますけれど。

○池田所次長 自主的なグループという位置づけをさせてもらっていますので、毎回、活動の報告書をあげていただくことが、若干負担にはなっていくかとは思いますが。ただ、2カ月に1回各自主グループの代表の方に集まっていたいただいて、その各グループの状況であったり、困りごとであったり、それこそ人数が減ってきたからどうするかといった問題をこちらも把握しながら、また、少し活動が低迷したところには、後押しで入ったりもしますので、一応、その活動状況は把握をしています。毎回、報告書をあげていただくところまではしていませんし、今後それが必要かどうかは、また検討が必要かと思えます。

○山本副会長 会合を持たれているということですが、その場所であがってくるいろいろな活動状況は、文面か何か残っていないのですかね。各グループの問題点とか、最近減ったとか、最近ふえたとか、そういう我々に見えるようなものはないですか。

○山中主幹 推進委員会のほうは2カ月に1回実施しておりまして、その記録等は残っております。

○山本副会長 このような議論で、今よりも促進するとなってくると、基準がいるわけです。今の資料では、その基準が余り見えてこない。どのように参加促進していくかという議論へ、いきにくいところがありますので、もう少し入り込んだ資料や情報を、この場にいただけたらと思います。

○杉谷委員 チューブ体操では、チューブ体操グループだけの会議を年に3回か4回やっております。でも、そのときは皆さん、何名ぐらいの会員数があるとか、問題点とか、そういう話をするだけで、推進委員会ほど資料はないですね。

○戸谷会長 そうですね。たくさん書かないといけないとなると、邪魔くさい、しんどいですからね。だから、何月何日何人で何をしたぐらいを、ずっとためていけば、だんだんすう勢や傾向が出てくると思うのですね。

○杉谷委員 人数的なものは、各グループに多分出席表があるので、聞けば出てくると思いますけれども。

○戸谷会長 ありがとうございます。ほかに何か御意見とか御質問とか。どうぞ。

○高城委員 今、主に議論になっているのは、いわゆる健康づくりの中で体を使った、歩くとか体操するとか、そういうことがメインになっていると思うのですけれども、確かにそれも大切です。しかし、いわゆる食ですね。食のことや口腔内の健康も、健康を維持していくためには大切だと自分の体験から思います。資料2のパンフレットに、みはらヘルスマイトが食のほうで、それから美原8020メイトが、いわゆる80歳で20本の歯を残そうという活動をされています。このあたりのところ、お話していただければうれしいです。

そして、先ほど、男の人はなかなか地域の活動に出てこないという話がありましたけれども、男の人も例えば妻に先立たれてお一人になったときに、毎日運動はしなくても、毎日食べなくてはならない。そのときに外食ばかりではだめで、ヘルスマイトさんのほうで男性の方を対象にした料理教室を何か前にお開きになったことがありますね。広報で見ましたけれども。そのあたり、具体的に何をしているかをお話ししていただけたらうれしいです。

○山中主幹 みはらヘルスマイトさんからお話をさせていただきます。先ほど言っていたように、男性の料理教室を保健センターで開催させていただいていますが、参加人数は少ない状況にあるように思います。ヘルスマイトさんは月1回定例会がありまして、どういった活動をするのかを決めたり、料理を試作したり、活発に積極的に活動していらっしゃるグループです。毎年そのヘルスマイトさんに入っていただくための講座を保健センターで実施して、その講座を卒業された方が、ヘルスマイトさんに入っただけという流れになっ

ています。

次に、美原8020メイトさんですけれども、こちらも年1回、講座を保健センターでやっております、ことしも3日間講座がありますけれども、その講座を修了された方が、8020メイトさんに加入していただける内容になっております。歌体操や、口腔の衛生などを勉強していただいて、地域に広げていただく活動をしていただいております。

この2つのグループとも健康づくり推進委員会に入っており、年6回の会議の中で、積極的に御意見いただいているという状況です。以上です。

○戸谷会長 よろしいでしょうか。御意見も出尽くしたと思いますので、案件2のほうに移りたいと思います。

案件2 その他

○戸谷会長 応募型地域まちづくり支援事業について、事務局から御報告をお願いいたします。

○事務局(大野) 前回の会議で御説明しました応募型地域まちづくり支援事業ですが、7月18日までは申請がございませんでした。しかし、1協議会から具体的な問い合わせがあり、審査の時期は当初からずれますが、予定どおり区民評議会の審査を経て、区役所で採択の可否を決定いたします。なお、審査基準や配点、事業主体である校区まちづくり協議会による説明と質疑応答などの審査方法は変更しておりませんので、次回よろしくをお願いいたします。応募型地域まちづくり支援事業については以上です。

○戸谷会長 今、御説明がありましたけれども、御質問、御意見ありますでしょうか。次回の区民評議会では審査することになりますかね。

○事務局(大野) お願いすることになるかと思っております。

○戸谷会長 審査方法は去年と一緒ですか。

○事務局(大野) 去年に決めていただいた審査方法と一緒です。区民評議会に校区まちづくり協議会の方に来ていただいて、事業内容の説明をしていただき、この場で区民評議会の委員さんから直接質問を受けて、答えていただくという流れで考えております。

○戸谷会長 ということですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、事務局のほうからもう1つ報告があります。事業の進捗状況について、御説明をお願いいたします。

○事務局(大野) 区民評議会の答申を踏まえた事業の進捗について御説明いたします。平成27年度と28年度に校区を単位とする地域のつながり強化について諮問いたしました。これに対して区民評議会からいただいた答申を踏まえて実施しております2つの事業について

報告いたします。

まず平成27年度の答申、避難所運営に関する事業につきましては、業務の一部を委託して進めていこうとしている事業として、現在、委託する事業者と契約を結ぶを進めているところです。9月から事業者を交えて地域の方との打ち合わせを始めたいと考えております。平尾校区と美原西校区では、今年度2年目の取り組みになるのですが、1年目に作成した避難所運営マニュアルの見直しをするために、また校区の皆様にご参加いただく機会をつくる予定です。

あと3校区がこの事業に参加いただけていない状況として、各校区とも避難所運営マニュアルづくりの必要性に御理解はいただいているのですが、新たに参加すると意思表示された校区は今のところございません。

次に、平成28年度の答申で、スポーツをテーマとする地域間、世代間の交流を支援する事業につきましては、答申を踏まえて、まず6校区から3名ずつ、合計18名による検討会を5、6、7月と3回開催いたしました。最後の7月の検討会で決定したことは、まず実行委員会を設置すること。その実行委員会では重要な事項を決定します。構成員は6校区の自治連合会の校区代表者の方、スポーツ推進委員さん、それから自治連合会が推薦する方、それに区役所の職員1名を加えて合計19名です。次に、その実行委員会の中に運営委員会を置いて、実行委員会が重要な事項を決定するに対して、詳細については運営委員会で決定すること、そういう2段階の仕組みをつくることを決めました。運営委員会の構成員は、各校区のスポーツ推進委員さん、それから自治連合会が推薦する方の合計12名です。

今年度につきましては、ディスコンというスポーツを1種目、3月11日の日曜日にさつき野学園で開催する運びとなっております。6校区でそれぞれ校区のチームをつくっていただく校区対抗のディスコン大会となります。ルールなどにつきましては、今後運営委員会で決めていきます。報告は以上です。

○戸谷会長 ありがとうございます。これについて何か御意見とか。どうぞ。

○田中委員 28年度の答申については、今、スポーツイベントで進めてもらっていますけれども、27年度答申の避難所運営については、3校区がまだ手つかずの状態ということですね。ただ予算をいただいている話です。

例えば、以前申し上げたと思いますけれども、通学の校区と自治会の校区が違う地区が何か所かあります。そうすると校区単位で避難所運営のマニュアルをつくっても、その境目とか、校区にずれがありますので、できるだけ残りの3校区も事業に参加してもらいたいです。それを勧奨することについては、企画総務課ではどうお考えなのですか。

○事務局（大野） ある1つの校区へは、校区自治連合会の会議に出向きまして、御説明させていただきましたが、まだ説明にとどまっているところです。ほかの校区も周りたいたと思っていますが、今順を追って。

○田中委員 今、言いましたように、せっかく3校区でしている事業ですし、予算もないわけではないですね。ですからよろしくお願ひしたいと思います。

○石田副区長 今、田中委員から御意見いただいた事業ですけれども、区役所としても、ぜひとも6校区でしていただきたい思いでございます。できるだけ早期に6校区がそろるように取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○戸谷会長 いかがでしょうか、ほかに。副会長。

○山本副会長 事務局の御苦勞はわかりますよ。今、校区でも、防災に関しましていろいろな事業をやっています。だから、ことしは少し難しいかと思えますけど、来年に向けてしっかり頑張っていて、せっかくついた予算を流すことがないようにお願いしたいと思えます。

○戸谷会長 ありがとうございます。28年度答申のスポーツイベントが進んでいて、具体的にわかりやすいけれど、27年度答申は余り進んでいないような印象を受けますね。

あと何か、ございますか。進捗状況の説明はよろしいですか。

それでは、全体を通じて最後何か御意見とかございますか。

○田中委員 1点よろしいですか。

○戸谷会長 どうぞ。

○田中委員 このことしの諮問「誰もが元気にいきいきと過ごせるまちづくり」についてですけれども、範囲が広くてつかみにくいという点があると思えます。大体いつごろまでには方向性を決めると考えているのですか。

○事務局（大野） こちらとしましては、諮問書に2月をめどに答申をくださいということにしておりますので、そこに向かって、そろそろ方向づけができればいいかと、次ぐらいからと思えますけれども。

○田中委員 中間答申はないのですね。

○事務局（大野） はい。今回は不要です。

○田中委員 そうしたら秋ぐらいには大体の方向性をと考えているのですね。もう少し整理があるかと思えますけれど。

○戸谷会長 よろしいでしょうか。

それでは本日の案件は終了いたしました。

閉会